

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070001021		
法人名	社会福祉法人初栄会		
事業所名	グループホームほがらか		
所在地	福岡県田川郡赤村大字内田2234-1 (電話) (0947) 62-3707		
自己評価作成日	平成 31 年 1 月 9 日	評価結果確定日	平成 31 年 3 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者のペース、生活リズムを大切にし、自由に生活が送られる様に支援をしている。入居者の状態に応じて自立した生活を目指すと共に、リハビリ訓練への参加や外出、行事への参加を行い、楽しみや生き甲斐づくりにも努力している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 31 年 2 月 5 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

玄関でお地蔵様が出迎えてくれるグループホームである。特筆すべきは、定年退職を除いて離職がなく、管理者と職員をはじめ利用者、家族との連携がよく取れた事業所である。在宅での生活の延長としての事業所の色彩が色濃く出ており、家族との外出や毎日の入浴を可能にしており、正月や誕生会等の場を始め毎日の晩酌が可能である。管理者、職員はお年寄りに優しい事業所を常に目指している。母体法人は総合福祉を志向しており傘下に、各種老人施設を有しており利用者の用途に応じて対応が可能である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議にて、理念の確認を行いながら、利用者の対応や地域との関わりを振り返り、理念を意識した実践を心掛けている。	住み慣れた地域の中で尊厳ある生き方を目指す理念を有し、理念の実践に関しても管理者が現場で共に介護実践を行い、その中で適時助言して職員を指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される行事への参加や保育園の慰問受け入れ、近隣にあるスーパーへの買い物等を行い、関わりを持っている。	自治会に加入しており敬老会、排水溝等の清掃を時宜に応じて行っている。村主催の文化祭への出品や参加、二か所の保育所からの園児のお遊戯や手紙の交換、高校生の研修等が行われている。民生委員を通して地域住民との交流をはかっている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や地域住民、他事業所等からの認知症への対応や介護保険に関する問い合わせは随時受け付け、対応している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者生活状況報告に加え、地域の高齢者施策、生活状況の報告等を受け、各委員からの助言を施設運営に活かしている。	運営推進会議は二ヶ月に一度開催され、サービスの実際や外部評価についての取り組みが報告され、会議で出された意見をサービスの向上にいかしている。委員から出されたインフルエンザ対策としての消毒、マスク着用や通院時の注意点を検討して、その徹底の意見が出され実践されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	近隣の市町村保健担当者との、介護申請時、電話、訪問等を行い、顔の見える関係性を構築している。	行政へは管理者が毎月“ほがらか便り”を持参して窓口に出向き、事業所の現状報告を行い、法令の変更等について助言や意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体、心理的拘束を行わない介護を実践していく為に、身体拘束の弊害について、毎月の会議や運営推進会議で検討、注意喚起を行っている。	日中居室、玄関は施錠しておらず拘束は行われていない。特にスピーチロックに関しては職員間で徹底をはかっている。職員は利用者の外出傾向を共有している。内部研修が行われており、テキスト、パンフレット、研修記録がそろっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	会議にて虐待防止に向けた取り組み、注意喚起を行い、職員間で注意がし合える様な体制を作っている。ボディチェックシートを活用している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政発行のパンフレット、成年後見人制度を活用している利用者の資料等をもとに、勉強会にて内容を学ぶ機会を設けている。入居時及び問い合わせがある場合は説明している。	制度については一月に一度開かれる会議に於いて内部研修が行われている。昨年までは外部研修への参加が確認できるが、定年退職で職員が不足しており今年度の外部への研修は参加できずにいるが、年間計画を作成し、外部からの有識者を招いての研修を検討している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や報酬改定時は、書面にて分かりやすく説明し、同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話対応時に、要望や意見がないかを気軽に話せる関係性を構築している。また、意見箱や外部相談窓口機関の説明も行っている。	管理者、職員の異動、離職が定年退職以外なく利用者、家族との関係は非常に緊密で意見を自由に言える環境である。理美容に関しても利用者、家族の意志に応じた対応をしている。寝巻の好みや利用者が希望する健康食品の購入等も行っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議にて、要望や意見を聞き取り、運営や入居者介護の向上に活用している。	自己評価は、全職員の意見を反映してまとめられている。職員の希望休への柔軟な対応がなされている。通院時のリクライニング対応の車椅子の手配。春の花見、秋のコスモス見物の場所の設定等、随時職員の意見を取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職会議にて、職員の要望や意見を集約する場を設け、職場環境や賃金の改善を行い、働きやすい職場作りにも努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集、採用に関しては、年齢や性別で判断せず、人間性や介護に対する気持ちで可否を判断している。	採用選考に関しては男女、年齢等で排除していない。定年は65歳であるが、一年更新で延長が可能である。資格手当もあり、スキルアップへの支援もなされている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議にて人権学習を取り入れ、高齢者の人権だけでなく障害者や同和問題も議題にしている。	人権に関する内部研修が全職員を対象になされている。テキストも既存のものから視野を広げて子供や家庭内暴力等への人権問題も研修内容に含まれていることが確認できる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会への参加を勧め、介護に関する知識、技術の向上に向け支援している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加入しており、勉強会や会議に参加して情報交換をしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅訪問や面談を行い、不安感の軽減や入居後の生活について話す時間を作っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず施設見学をしてもらい面談を行う。支援内容や費用面について協議をし、入居後の不安について軽減出来る様に支援している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係職種、行政、家族、本人と連携を図り、様々なサービスの活用について検討している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に食事の片付けや洗濯物たたみ、掃除等を行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の現状を家族にも伝え、状態の共有を行い、家族が担える事は協力してもらっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診や外出時に住んでいた地域に足を延ばしたり、今まで入所していたケアハウスに遊びに行ったりして、関係性を継続している。	利用者が生まれた実家の訪問、お墓参り、同一敷地内のケアハウスとの相互訪問、外出時に事業所への最短ルートではなく馴染みの場所を経由して知人との語らいの場を設定する等の事例がみられる。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者同士の関わりがスムーズに出来る様に支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も地域で顔を合わせた際は、近況や困っている事はないか等を話す様にしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴や趣味、生活に対する意向を、本人、家族から聞き取り、日々の支援内容に反映させている。	管理者、職員の異動、交代が6年間なく意思疎通が困難な利用者の発する単文や単語で希望が把握できている。あるいは、表情、仕草で意向をほぼ把握できている。職員間で意志、希望を把握するノウハウが共有されている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や担当ケアマネジャーと連携を取り、今までの生活状況を確認し、日々の支援内容に反映させている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや会議にて利用者個々の生活状況確認を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向、家族意見の聴取をもとにカンファレンスを行い、状態に応じて、3ヶ月又は6ヶ月、状態変化時に全職員で立案している。	介護計画は、職員全員でカンファレンスをおこない作成し、受診時の医師の意見も取り入れ計画に反映されている。状態が安定しておれば6ヶ月に1度、安定していなければ、その都度に見直しを行い、本人、家族に説明し同意が得られている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況や計画内容実施状況については、各書式に記録を残し、カンファレンス、情報共有に活用している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所だけでなく、地域の公的、非公的資源の活用にて、ニーズの充足が実現出来る様に支援している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院や理美容室、買い物等は今まで利用していた資源を活用している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関、今までかかっていた医療機関を受診する様になっている。	入所以前からのかかりつけ医に、入所後も引き続き診療することができる。受診時は、基本的には事業所の職員が付き添いをおこなうが、状況により家族が付き添ったり、受診時に家族と待ち合わせをしたりしている。受診の状況報告は、電話連絡や家族の来所時に報告している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者状態について、昼夜問わず、医療連携事業所看護師、併設施設看護師に相談が出来る体制を作っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が発生した場合は、定期的な面会や物品の入れ替えに行き、状態確認、退院時期について医療連携室や主治医と連携している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の重度化について、入居時や入退院が発生した場合に本人や家族と協議をする時間を作っている。	事業所の重度化対応については、利用時や状態の変化時に説明し、事業所でできること、できないことを確認している。事業所にて対応が困難になる場合は、特別養護老人ホームや療養型病院への転居も視野に説明している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の勉強会や消防署主催の救命救急講習に参加し、対応を学ぶ様になっている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難誘導訓練(夜間想定を含む)を実施し、運営推進会議にて近隣住民に参加を呼び掛けている。	避難訓練は年に2回おこなっており、消防署へ参加を呼び掛けている。2回のうち1回は夜間を想定している。また、大雨による土砂災害や水の流れ込みによる災害も想定した避難訓練を行っている。法人として、地域の高齢者、認知症者の災害時避難場所としての指定も検討している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄確認、介助時には、個別対応、プライバシー保護を意識した対応を行っている。	職員は、排泄の声かけを耳元でしたり、入浴時のプライバシーの確保を徹底したりと、人格を尊重した介護を実践している。外部からの利用者に関する問い合わせは、必ず管理者を通して回答するようにし、個人情報の保護に対してのルールが遵守されている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や食事形態、レク活動内容、外出場所等は、本人に聞き取りを行いながら希望にそった支援をしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、睡眠、日常生活をどう過ごすかは、本人と会話をしながら希望を確認して対応をしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や受診、買い物時の身だしなみについて、本人と確認しながら季節に合った服装やお洒落が楽しめる様にしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下拵え、配膳、片付けを利用者と共に行い、食事形態や好き嫌いにも柔軟に対応している。	事業所内で炊飯し、カレーやシチュー、お好み焼きといったメニューは、利用者が野菜を切つて職員と一緒に調理している。その他の副菜は、同法人の厨房にて、栄養バランスを考慮した献立に基づき提供されている。職員1名が検食として利用者と同じ食事を摂っている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養価に配慮した献立を栄養士により作成している。食事、水分摂取量は記録している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、訪問歯科診療による口腔内チェックを行い、清潔を保持している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	随時及び定時のトイレ、ポータブルトイレ誘導により、自立した排泄が継続出来る様にしている。	職員は利用者の排泄のサインを把握し支援している。以前におむつ外しに取り組んだ経緯もあり、今できていることを維持できるように、カンファレンスの中で、適切な排泄方法（トイレ誘導、リハビリパンツの使用、ポータブルトイレ使用等）を検討している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	雑穀米を食事に取り入れたり、こまめに水分摂取を勧めたりして、便秘予防を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日や時間帯は設定せず、入居者の希望に応じて対応している。個浴を行っている。	入浴は希望があれば毎日でも入浴することができる。浴槽はひろく、ゆったりと入浴することが可能である。ゆずや入浴剤を使用し入浴を楽しむ工夫をおこなっている。入浴を拒否する利用者へは、職員に対し心を開き、自ら入浴していただくように、時間や日にちをかけた対応している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や昼寝に関しては、本人の好きな様に過ごしてもらう。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員で薬剤情報や副作用について確認を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	片付けや洗濯物たたみ、レク活動にて歌の好きな入居者と一緒に歌う等、役割や楽しみが持ち続けられるようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員や家族協力の下で、季節毎のドライブや外食を行っている。	年に2回、花見を企画し、花の下でバーベキューをすることがある。日常的には、受診の際にドライブをしたり、お菓子を買いに近隣のスーパーに出かけたりしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や施設外レク活動時には、金銭を用意し好きな物を自分で購入出来る様にしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙のやり取りができる様にしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けや室温、湿度計を各部屋に設置し、過ごしやすい環境にしている。	共有空間は、木をふんだんに使用しているため温かみがあり、大きな窓からは光が十分に差し込んでいる。壁には利用者の書いた書道の作品が掲示されている。季節の飾り、ひな人形が製作中であった。リビングや廊下に温度、湿度計が置かれ、エアコンと補助的なヒーターにより適温な状態に管理されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやレジャーシートを活用し、ゆっくりと過ごせる場所を作っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅生活時に使い慣れた物、愛着がある物は本人、家族に協力してもらい持ち込んでもらっている。	利用者の居室には、ベッドが備え付けられており、たんすやソファが持ち込まれていた。持ち込むものに制限はなく、各々、写真や置物で飾られており、個性的な部屋である。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は、入居者の現存能力に応じて、出来る事、支援が必要な事を見極めながら対応している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない